

# 皆さまの医療費の状況をお知らせします！



共済組合では、「データヘルス計画」および「医療費適正化対策事業」の一環として、令和4年度および令和5年8月分のレセプト（診療報酬明細書）をもとに医療費の統計を行いました。

どのような病気で医療機関にかかっているのか、1人当たりどれくらいの医療費が使われているのか、年齢によってどのような疾病が多いのかなどの目安になります。

なお、組合員の皆さまには、年2回の医療費通知を行っております。日頃から医療費への関心を持っていただくことが、皆さまの健康と健全な医療保険制度の運営につながります。

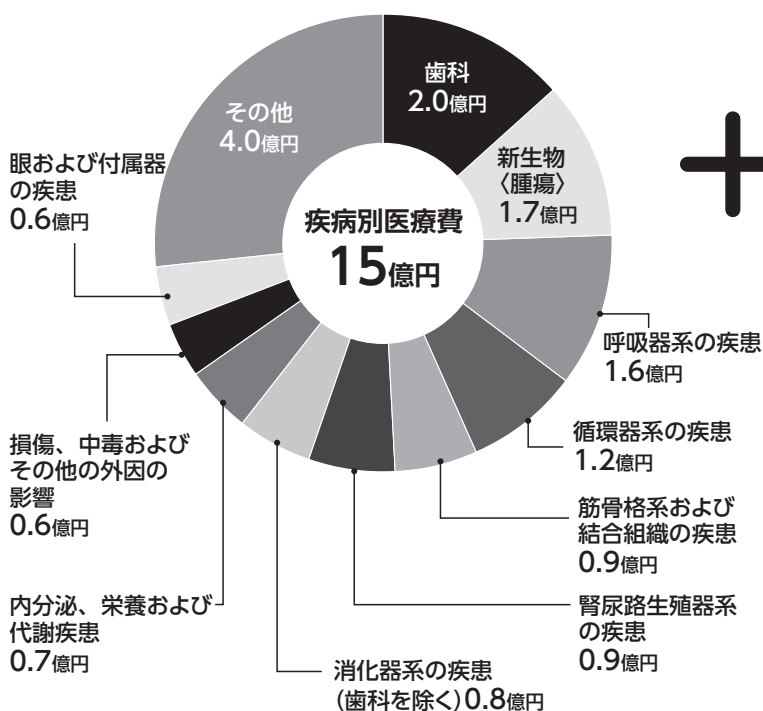
## 医療費トップは歯科疾患!!

令和5年8月の医療費に注目してみました。1カ月の医療費を疾病分類別にみると、「歯科疾患」が全体の13%を占め1位となっています。そのうち、およそ8割を慢性歯周炎・慢性歯肉炎が占めています。このグラフから、生活習慣を見直すことで予防可能な疾病が上位を占めていることがわかります。

また、薬剤費は昨年よりも増加傾向にあり約4.4億円となっています。この薬剤費のうちジェネリック医薬品の利用は約58%です。

早期発見、重症化予防のために健康診断は定期的に受けましょう。健康診断で異常が見つかった場合は、放置せず必ず医療機関を受診しましょう。

### ● 令和5年8月の疾病分類別医療費と薬剤費 ●



+

薬剤費  
4.4億円



### ジェネリック医薬品への切り替えにご協力をお願いします！

ジェネリック医薬品に切り替えると、皆さまのお薬代を減らすとともに、共済組合全体の医療費を抑えることができ、最終的には組合員の皆さまからお預かりする掛金の上昇を抑えることにつながります。

## お口の健康は全身の健康に通ず

日本人の7～8割は歯周病菌に感染していますが、これを放っておくと全身にも影響を及ぼしてしまいます。

### 歯周病は生活習慣病や感染症と深い関係が

中でも糖尿病と歯周病の相互関係はよく知られています。歯周病で歯肉の炎症が起こると、体内のほかの部位でも炎症が起こりやすくなり、血糖値が下がりにくくなります。また、糖尿病で口が渇きやすくなると、口内環境が悪化して歯周病も悪化するのです。

そのほかにも以下のようなリスクがあります。

- 高齢者に多い誤嚥性肺炎は、歯周病菌の混じった唾液が肺に入ることによって起こりやすくなる。
- 歯周病により歯根膜や歯槽骨が壊されると、噛む力が衰えて満腹感が得られなくなり、肥満やメタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病につながる。

### 全身のケアとお口のケアは両立してこそ効果アップ

全身の健康状態を維持・向上するには、お口の健康の維持・向上と両立することがカギになります。片方だけのケアでは、効果は上がりにくいのです。

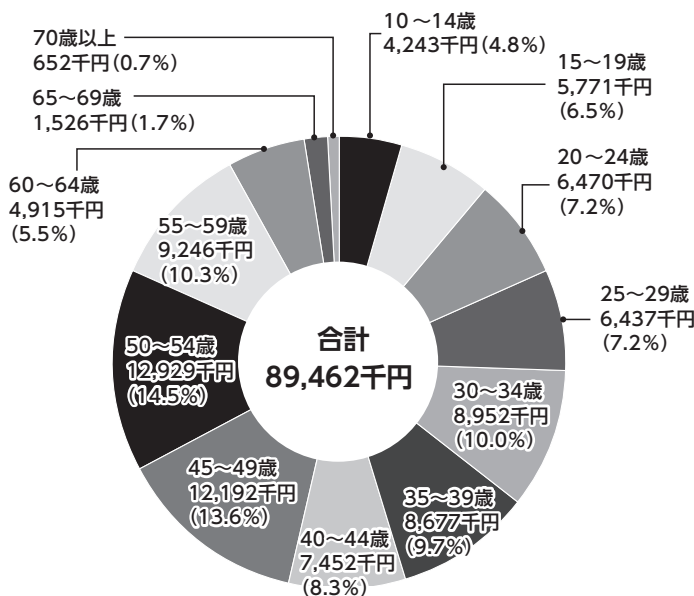
毎年、健診で全身の健康状態を確認するように、歯科でのお口のメンテナンスも定期的に受け、自分に合ったケアの方法を教えてください。

## 精神疾患の受診状況をクローズアップ！

令和5年8月の精神疾患の医療費について、年齢階層別でランキングすると、下記のグラフの結果となり、罹患者数は30代～50代のいわゆる働き盛りの世代が多くを占めています。

1人当たりの医療費を見ると10代、20代の若年層の医療費が高くなってきております。

● 精神疾患の年齢階層別の医療費と構成割合 ●



● 精神疾患の1人当たりの医療費 ●

年度 年齢区分	罹患者数(件)	1人当たり 医療費総額(円)
10-14歳	171	24,813
15-19歳	194	29,747
20-24歳	262	24,695
25-29歳	367	17,540
30-34歳	431	20,770
35-39歳	431	20,132
40-44歳	407	18,310
45-49歳	521	23,401
50-54歳	649	19,921
55-59歳	472	19,589
60-64歳	222	22,140
65-69歳	79	19,316
70歳以上	20	32,600
合計	4,226	292,974

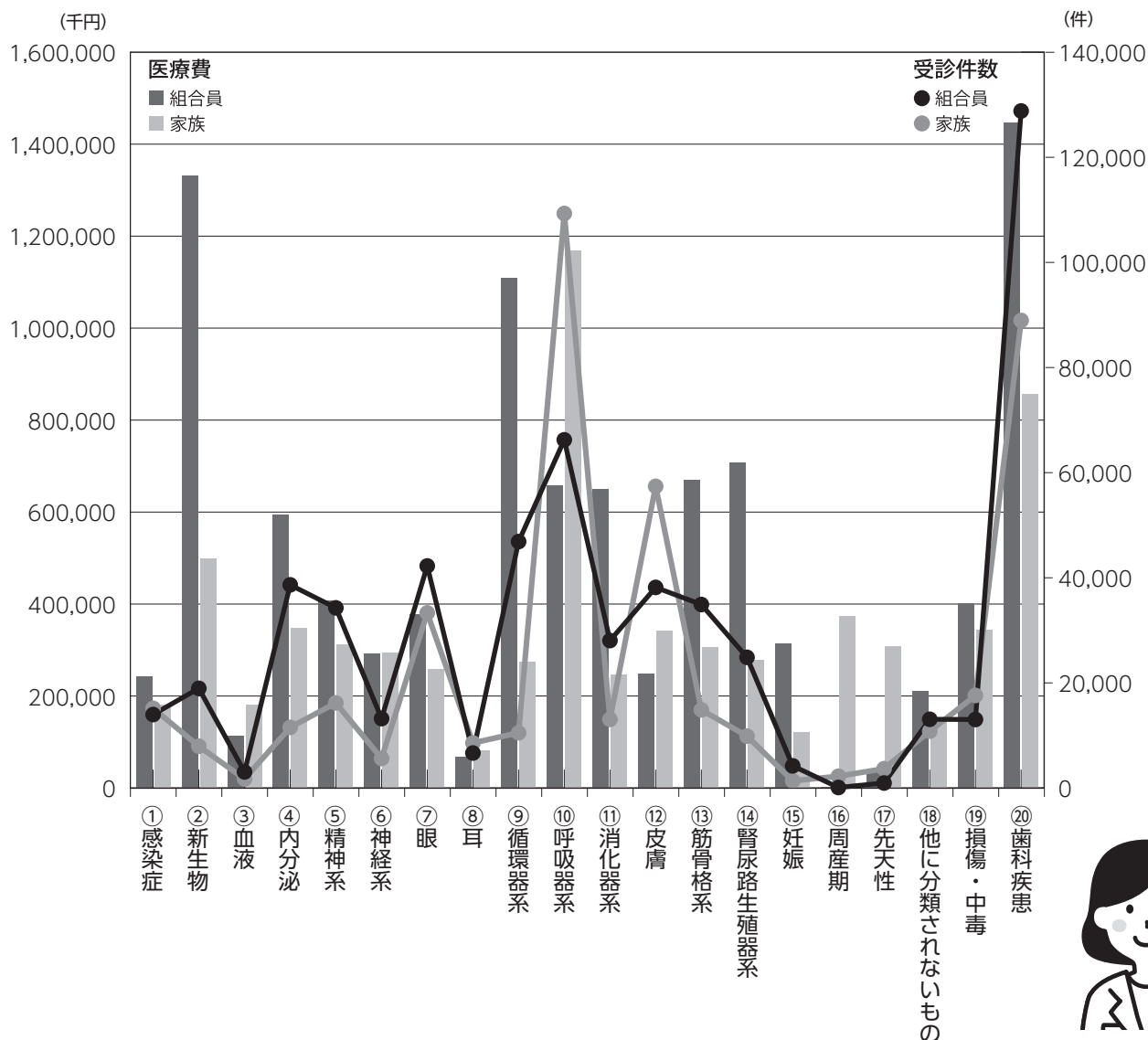
メンタル不調の原因は様々です。自分は大丈夫!と書いていても、こころが疲れてしまうことは誰にでも起こりえます。これから新年度を迎え、大きく環境が変化する人が増えます。環境が変われば、知らず知らずのうちにストレスが蓄積されていることも…。

周りの人や家族がいつもと様子が違う、なんだか元気がないと感じたら、ひと声かけてあげる思いやりを大事にしたいですね。

## 令和4年度の医療費と件数を疾病分類別にみると

組合員と家族を合わせた合計の件数は「歯科疾患」と「呼吸器系の疾患」が顕著に多く、医療費では「歯科疾患」がトップで、「新生物」、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」と続きます。

組合員で見ると「歯科疾患」、「新生物」の医療費が多いことがわかります。家族では「呼吸器系の疾患」の医療費が最も多い金額となっており、続いて「歯科疾患」が多くなっています。「歯科疾患」は、組合員と家族ともに件数も医療費も多いことがわかります。



さらに年齢階層別に詳しく分析すると...



項目	主な傷病名
① 感染症	結核、ウイルス肝炎
② 新生物	腫瘍、白血病、がん
③ 血液	貧血
④ 内分泌	糖尿病、脂質異常症
⑤ 精神系	うつ病、統合失調症
⑥ 神経系	パーキンソン病、てんかん
⑦ 眼	結膜炎、白内障
⑧ 耳	外耳炎、メニエール病
⑨ 循環器系	高血圧症、脳梗塞
⑩ 呼吸器系	かぜ、アレルギー性鼻炎

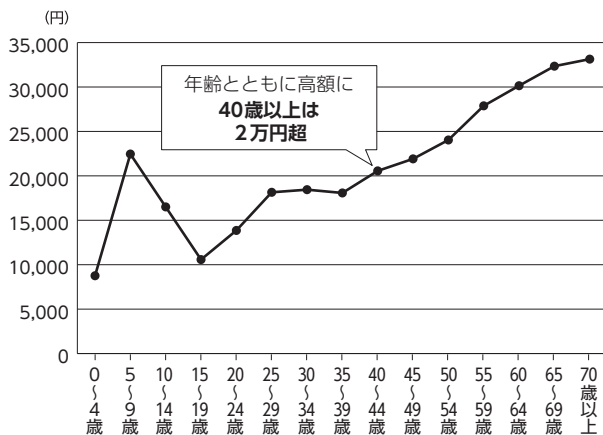
項目	主な傷病名
⑪ 消化器系	胃炎、肝炎
⑫ 皮膚	湿疹、にきび
⑬ 筋骨格系	関節症、腰痛
⑭ 腎尿路生殖生殖器系	腎不全、尿路結石症
⑮ 妊娠	流産、切迫早産
⑯ 周産期	胎児発育の障害
⑰ 先天性	染色体異常
⑱ その他	ほかに分類されないもの
⑲ 損傷・中毒	骨折、やけど
⑳ 歯科疾患	むし歯、歯周病

# 1人当たりの医療費を疾病分類別にみると

$$\text{1人当たりの医療費} = \frac{\text{疾病分類ごとの総医療費}}{\text{平均組合員数} + \text{平均被扶養者数}}$$

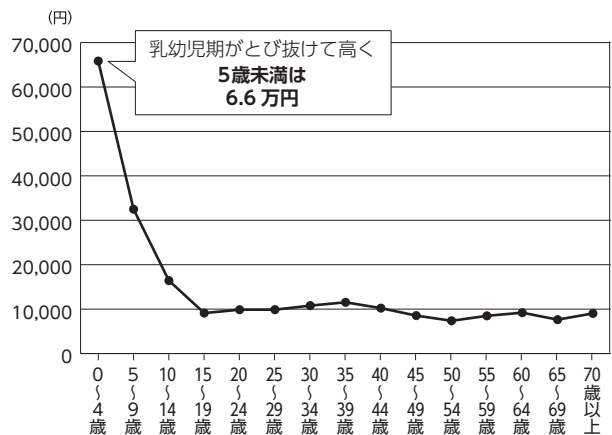
## 歯科疾患

むし歯、歯周病など歯の疾患では、5～9歳が2万2,457円と高く、また、15歳以降は年齢を重ねるごとに高くなる傾向にあります。



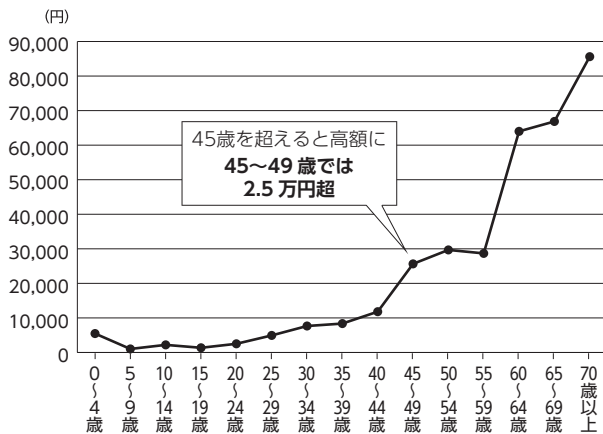
## 呼吸器系

かぜ、アレルギー性鼻炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患では0～9歳までが全年齢層の中でも特に高く、他の年齢層では一部高い年代もありますが、15歳以上からはほぼ横ばいの傾向にあります。



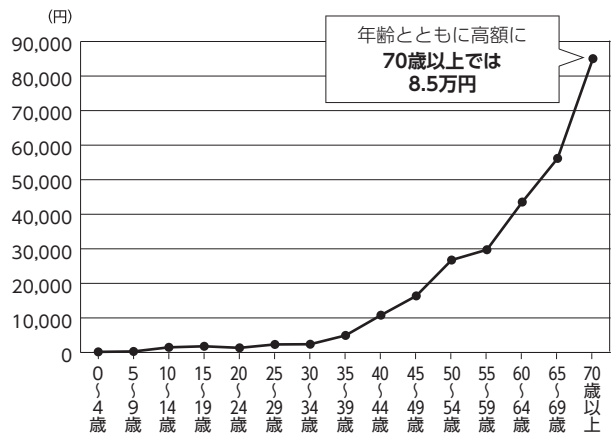
## 新生物

乳がん、胃がん、肺がんなど主にがんの疾患で、20歳以降は年齢とともに徐々に高くなり、60～64歳は6.4万円、70歳以上では8.6万円と、とび抜けて高くなっています。



## 循環器系

循環器系の疾患では狭心症などを含む心疾患や脳内出血などの脳疾患が多くみられ、30～34歳まではほぼ横ばいですが、35歳以上からは年齢とともに増加していく傾向にあります。



これまでの統計・分析から、30代から年齢を重ねるごとに高血圧やがんなどの生活習慣病関連の医療費が多くなっていくことがわかります。一方で、むし歯やかぜなど普段からかかりやすい疾患は乳幼児期や50歳以上の方に医療費が高くなっています。これら身近な病気は、毎日の歯磨きやうがい、手洗いなどで予防することができます。

生活習慣全般から起こる様々な体のトラブルが原因の疾患が30代を境に受診者数が増加しており、医療費も高額になります。年に一度は必ず健診を受け、食事や飲酒など日頃の生活習慣を見直し、禁煙や運動を意識的に日常に取り入れるなど、日々のちょっとした行動を習慣づけて家族みんなで健康的な暮らしを実現しましょう。

お問い合わせ先 保険課 ☎048-822-3306